

国際ロータリー会長 K.R. ラビンドラン

国際ロータリー  
第2790地区ガバナー 櫻 木 英 一 郎

第5分区ガバナー補佐 吉 岡 諭 史

鴨川ロータリークラブ

会 長 脇 坂 保 雄

副 会 長 小 篠 隆

幹 事 小 高 由 加 里

会 報 古 市 一 雄



=今週のプログラム=

11月24日 会員卓話

=次週のプログラム=

12月 1日 クラブフォーラム年次総会  
次期役員・理事選出

例会日 (火) 12:30～13:30  
例会場 鴨川シーワールドホテル

事務所 〒296-0001 鴨川市横渚697 伊藤胃腸科クリニック内  
URL <http://www.kamogawa-rc.com> TEL・FAX 04-7093-2001

## 第16回 例会 報告

日時：平成27年11月17日12:30～

- |   |          |            |                                    |
|---|----------|------------|------------------------------------|
| 1、点 鐘   | 副会長 小篠 隆 | 4、会長挨拶     | 副会長 小篠 隆                           |
| 2、ロータリーソング斉唱<br>「それでこそロータリー」                                |          | 5、幹事報告     | 幹 事 小高由加里                          |
| 3、ゲスト紹介   | 副会長 小篠 隆 | 6、米山奨学生卓話  | 米山記念奨学会委員長挨拶<br>堀口路加様<br>奨学生 李 俊傑君 |
| ・国際ロータリー第2790地区<br>米山記念奨学会委員長<br>堀口路加様(成田RC)                |          | 7、メーカーあいさつ | 砂戸淳一様からバナーをいただきました                 |
| ・2015年度ロータリー米山記念奨学生<br>李 俊傑君(世話クラブ市原RC)                     |          | 8、委員会報告    | ①親睦委員会 配偶者誕生祝い<br>②その他 亀田美穂会員      |
| ・学校法人鉄焦館 亀田技術専門学校<br>事務長 松下泰久様                              |          | 9、ニコニコタイム  |                                    |
| ・城西国際大学観光学部<br>事務長 松野清伸様                                    |          | 10、出席報告    |                                    |
| ・国際ロータリー第2750地区<br>東京小金井さくらRCパスト会長<br>さくら4クラブ実行委員長<br>砂戸淳一様 |          | 11、点 鐘     | 副会長 小篠 隆                           |

## 会長挨拶

会長代理 副会長 小篠 隆

こんにちは



14日、15日はライラセミナーが実施されました。雨の中、約80名が参加してくれました。

鴨川から倉島会員の紹介で城西国際の学生さん2名が参加してくれました。有り難うございました。

話は変わりますが

2008年8月の房日新聞に、「鴨川市の懸案となっている国道128号実入バイパスの整備で、市と市議会、商工会、観光協会などが早期事業化を国に直談判した。」

本多市長をはじめ、16名が、市と市議会、同道路問題調査特別委員会、商工会、天津小湊・鴨川両観光

協会連盟の要望書を手し、県選出の衆参両院議員、財務省、国土交通省などを訪問した。一行は「代替道路もなく、崖崩れなどの危険性の解消と安全性の確保が喫緊の課題となっている」ことを説明し「経済活動や高度医療施設への広域的なアクセス確保のためにも、実入バイパスの新規事業化を」と訴えた。と新聞記事にありました。

7年という歳月を経て、房地域整備センターでは、この9月末に入札を行いました。ゼネコンと館山の建設会社のJVで、工事期間は約2年。天津側は現在の道路左側より内浦の県民の森入口交差点付近までの約0.9km、うちトンネル部682m・幅8m、(片側4mうち歩道1m)を整備します。

技術提案型という入札形態で金額だけでなく技術力も落札するための条件となっていました。この辺にはない丈夫で頑丈なトンネルが出来るのではないかと期待しています。

また、本日会長代理で「高速道路を鴨川へ誘致推進協議会」設立発足会に出席してまいります。

本日の挨拶は以上です。

## \* 米山記念奨学事業と地区米山記念奨学委員会の現状について

RID2790 米山記念奨学委員会 2015-16 委員長 堀口路加様

鴨川ロータリークラブの皆様、はじめまして。

今年度地区米山記念奨学委員会の委員長を仰せつかっております成田ロータリークラブの堀口と申します。どうぞよろしく申し上げます。

昨年度、皆様方には、米山奨学生 ファリス ロハス クリスチャン アルベルト君を受け入れていただき、特にカウンセラーを引き受けてくださった古市一雄様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

きょうは貴重な例会の時間を割いていただき、米山奨学生の卓話の時間を設けていただきありがとうございます。皆様のお手元に「ロータリー米山記念奨学事業豆辞典」の改訂版が配布されているかと思えます。豆辞典には米山記念奨学事業の内容がコンパクトにまとめられておりますので後ほどゆっくりお読みいただきたいと思えます。私からは米山記念奨学会の現状と地区委員会の活動の様子について手短にお話し申し上げます。



「ロータリー米山記念奨学事業とは」、日本のロータリーが作った独自の事業で、34地区、全地区が推進する合同プロジェクトです。事業のはじまりから一貫して、日本で学ぶ外国人留学生を対象としています。「公益財団法人ロータリー米山記念奨学会」というのは、この事業をおこなうために、日本のロータリーが協同して運営する奨学財団で、財源はすべて会員の皆様からのご寄付で成り立っています。この奨学金の最大の特長は「世話クラブ・カウンセラー制度」です。銀行振込が多い他の奨学金とは違って、米山奨学金では実際にロータリー



活動に共に参加してもらい、ロータリアンと交流することを大切にしています。

米山奨学金は、日本のロータリーの父と呼ばれる米山梅吉氏が亡くなったあと、その功績を永くに偲ぶことができる事業をやろうと、1952年、東京 RC がはじめたものです。アジアから優秀な学生を招いて研究させようというもので、当時は「米山基金」をいう名前でした。当時、彼らが思い描いていたモデルは、アメリカのフルブライト奨学金でした。「二度と戦争の悲劇を繰り返さないために“平和日本”を肌で感じてもらいたい」。当時の日本のロータリアンたちも、フルブライト上院議員と同様、人と人との交流こそが、平和な世界の基礎を作ると考えていたのです。こうして、東京 RC が始めた「米山基金」は、わずか5年で日本の全ロータリークラブの共同事業となり、1967年、財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立されました。2017年には、財団設立50周年を迎えます。

米山記念奨学会では年間730人、累計で世界123の国と地域から18,648人を支援しています。これは、外国人留学生を対象とする民間奨学金としては

最大規模です。2015年度の奨学生の国・地域別の割合は中国が39.7%、続いて韓国が14.4%、ベトナムが11.1%、累計では中国が33.0%、韓国が22.9%、台湾が18.3%となっています。こうした状況に「中国の学生が多すぎる」という声を時々いただきます。外国人留学生というと、欧米系の人たちを思い浮かべる人が多いか

もしれませんが、現状、日本にいる留学生の90%以上がアジア人です。その中でも最も多いのが中国人なので、まず絶対数が多いことをご理解ください。当地区委員会でもそうですが、他地区でも指定校に対して、国籍バランスを考えた推薦をお願いするほか、地区での選考の際は、優秀性を重視しつつも1カ国に偏らないようにするなど工夫を重ねており、その結果、2012年度50.8%だった中国人奨学生の割合は、今年度39.7%と3年前に比べて大きく減少しています。

当地区では、今年度24人の奨学生が割り当てられており10カ国の奨学生がおります。来年度

は2人増えて26人になる予定です。奨学生をもつとこの地区に割り当ててもらい多くのクラブで世話クラブになっていただけますと、米山記念奨学生の素晴らしさと事業の意義を実感していただけるかと思えます。きょうは中国黒竜江省から留学している千葉工業大学修士課程の李俊傑君をお連れしました。世話クラブである市原ロータリークラブでは二度卓話を経験していますが、他のクラブでは今日が初めての卓話だそうで、多少緊張しているかと思えます。どうぞ温かな眼差しと広い心でお聞きいただけますようお願いいたします。では李俊傑君、お願いします。

## \*2015年度ロータリー米山記念奨学生卓話

千葉工業大学社会システム科学部プロジェクトマネジメント科留学生  
中国黒龍江省出身 李 俊 傑 君 (世話クラブ市原 RC)

皆さん、こんにちは！

中国から参りました李俊傑と申します。

本日は貴重な時間をいただき、誠にありがとうございます。

自分の卓話が少しでも皆さんに良い印象が残れば良いなと思います。

では早速ですが、これから卓話を始めさせていただきますと思います。



### 自己紹介

私は中国黒竜江省にある、鶏林という小さな村で次男として生まれました。その村はロシアの国境から40キロぐらいしか離れていません。小学校卒業旅行で国境線を見学した覚えもあります。

ところで、中国は数多い民族があることをご存知だと思いますが、詳しく言うと56民族あります。私の家族はその中の一つである朝鮮民族の四大家族です。両親は今、韓国に住んでいます。定年前は、二人とも

教育職位に30年就いていました。ここで面白いエピソードは、私が小学生のときの担任先生が自分の母でした。

そして、中学生のときも父が私の授業に出たこともあります。他に今、上海で建築士として活躍している兄がいます。兄はいつも私に輝かしいお手本を示してくれました。中国の名門大学を卒業した兄は大学卒業して10年経った今、設計から竣工まで至った建物が5件もあります。家族の誇りとも言えるでしょう。

以上、私の家族についてご紹介させていただきましたが、振り返ってみると、我々兄弟が今まで取得した成績は、小さい頃から両親の正しいかつ厳しい教育があったからだと思えます。この場を借りてもう一度、両親に感謝の気持ちを伝えたいと思えます。

### 日本文化との出会い

次に私と日本との出会いについてお話ししたいと思います。それは宿命的な話ではありませんが、何か縁が繋がっていたものもあったと思えます。中国では中学校から外国語の勉強に入りますが、ほぼ英語を勉強します。

しかし、我々の学校は少し変わって、外国語が日本語になっていました。また、叔母の旦那さんが日本人の方でしたので、なんとかその人とたくさん話したいと思って、日本語に一層興味を持つことになりました。人間はあることに夢中になると必ず上手くいくはずです。その通り、中学4年、高校3年間に渡って私の日本語の成績はいつも優秀でした。その時から、日本に留学したいと決心したのです。

しかし、大学に入ってから日本語の授業がほぼなくなり、履修科目も多かったため、一度は日本語力を失ったことがありました。「このままでは、日本に行

けないぞ」と思った私は、日本語を猛復習し、やっと大学を卒業する前に日本語能力検定試験 2 級に合格しました。



### 日本に来た決め手

2010年に大学を卒業した私は、まず就職しました。目的は二つありました。

会社で社会経験を積むことと少しでも貯金して留学時に使おうと思ったことです。この二つの目的を2年間で達成するつもりでしたが、社内のあるプロジェクトで日本人の技術者と出会うことで、計画が前倒しになりました。

当時私は、その方と同じプロジェクトチームではありませんでしたが、社内で日本語が喋れる人は私しかいませんでしたので、仕事上どうしても英語で通じなかった部分は私と日本語で相談して、会社側と意思疎通しました。その方とは仕事面だけではなく、日常生活、人生や夢まで広がりました。その方の「本当にやりたいことが見つからなかったら、探し続けてください」という一言に感心した私は、日本留学のことを急ぎ、2012年の3月28日に初めて日本の国土に立ちました。

### 来日後

初めて日本に来た頃は、それほど苦勞はしませんでした。日本語の基礎がありますし、食習慣も我々朝鮮民族とそんなに変わらなかったからだったと思います。

このように、日本の生活にすぐ慣れた私はちょうど一ヶ月後からアルバイトを始めました。アップルストアというお店で開店前に年配のおばあさんと二人で掃除する仕事でした。最初はうまくいきませんでした。おばあさんがモップの握り方から詳しく教えてくださったおかげで、どんどんうまくなりました。私はおばあさんと仕事が終わったら、日中韓三ヶ国の伝統文化や趣味などについて歓談していました。日本語は語学学校だけではなく、このように実際に日本人の方と日常いっばい喋ることで上達するのだなと感じました。おばあさんも私のことを可愛がってくださいまし

た。私が日本語能力限定試験 N1 に合格した時はダウンジャケットまで買ってくれました。

そんなおばあさんがある日無断欠勤するなんて…翌日、訃報が私の耳に入りました。その時の気持ちは言葉では表現できませんでした。ほぼ毎朝一緒に店に入って、仕事をして、帰りは必ず10分ほどおしゃべりしていたあのおばあさんが突然いなくなるなんて、私にとってはショックでした。それ以来3年経った今でも、たまにおばあさんが最後に私に「今日もお疲れ様でした」と言ってくれたその一言を思い出します。

### 大学院

2年間の語学学校での勉強を終えた私は2014年4月に千葉工業大学大学院に入学しました。私が勉強している学科はプロジェクトマネジメント学科と言います。

では、この学科の研究分野を説明させていただきます。大きなプロジェクトを実施するためには、性格、技量、専門分野の異なる人たちを集めてチームを編成しなければなりません。その意見をどうまとめ、限られたお金や時間をいかに有効利用するかなど、良い結果を得るために考えるべきことはたくさんあります。これらを管理してプロジェクトを成功に導くのがプロジェクトマネージャ。目標の達成には計画が必要であり、計画を首尾よく実行するためには、幅広い分野に通じた



ノウハウや知識が必要です。それらを本学科では、バランスよく、実践的な学問として学びます。

それを活かす現場は、製品やソフトウェアの研究・開発、企業・行政の運営など。つまり、プロジェクトマネジメントとは、「これまでに経験したことの新しいものをつくり出す仕事」といえます。ソフトウェアや IT 関連の開発でプロジェクトマネジメントの知識を必要とする企業は数多く、製造業でも商品技術開発プロジェクト要員として相当のニーズがあります。そこで、今年の8月中旬に私は富士ソフト株式会社という IT 企業に内定をもらいました。

就職活動中の苦しさは言うまでもありませんでしたが、良い結果が出て本当に良かったと思います。プロジェクトマネジメント学科を卒業した以上、今後はこ

の業界で絶対信頼されるマネジャーになることを目指して頑張りたいと思います！

### ロータリーとの「出会い」

話が変わって、私がロータリー米山記念奨学金と縁を結ぶことになったのは、去年偶然学校の学生課からの募集要項を見たからです。

最初は、作文を書かせたり面接をしたりして厳しいところだなと思いました。



しかし、私が今お世話になっている市原ロータリークラブの皆さんは私が毎月の例会に参加するとき、みんな優しい笑顔で声をかけてくださいます。そして例会で様々な報告を聴いて、ロータリーは本当に素晴らしいことをしているんだなと実感しました。

また、カウンセラーの白鳥さんとも例会会場に行くときや帰りに色んなことについて歓談します。今まで耳にしたことのない言葉や面白いエピソードをいっぱい聞かせてくださいます。これは、まだ若い私に対し

で大切なことであり、これからの人生で絶対役に立つと思います。それに対して、奨学期間が終わって連絡が取れる奨学生は三分の一しかいないという現実があるそうです。しかし私は、このように貴重な経験をくださる組織とは奨学期間が終わっても、ずっと続けたいと思います。

また、米山奨学生になって世界各国から来た優秀な留学生たちともコミュニケーションが取れて本当に嬉しかったです。10月の4日には奨学生みんなが米山梅吉記念館にも訪れ、本当に意義のあるイベントでした。

一方、もらってばかりの立場である私ができることは何かを考えてみました。一言で申し上げますと出世することです。出世するしかありません。「出世」という言葉は辞書では「世に出て高い地位につき、世間に名が知られる身分になること」と書かれていますが、私が目指している出世とは家族、親友が私に対する願望を満たし、また私のほうから社会、国、さらに全世界に貢献することです。

世間に名が知られなくなってもどうでも良いです。私は米山記念奨学金をもらってからアルバイトを止めました。それは、もっと多くの時間で沢山のことが勉強できると思ったからです。まさに、米山奨学金は私の出世の期間を短くしてくださったのです。その感謝の気持ちをいつも心にしながら、黙々と頑張っていきたいと思います。

2012年4月に来日してから、長くも短くもない3年間を振り返ってみると本当に感慨無量で仕方がありません。これからの人生で「自分の力で世の中を少しでもよくする」という座右の銘を銘記し、必ず社会に有用な人材になりたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。



**\* 幹事報告…幹事 小 高 由 加 里**

1. 千倉ロータリーより例会変更案内があります。
2. ハイライト米山が届いております。



**\* メーキャップあいさつ**

砂 戸 淳 一 様からバナーをいただきました。

**\* 会員結婚祝い**



**\* その他報告… 亀 田 美 穂 会 員**

オルカ鴨川F Cの入替戦日程が決定しました。

1 2月5日鴨川市陸上競技場、13日は、熊本での試合です。

地元で開催しますので、3,000人のサポーターで応援したいと思いますので、ご協力下さい。

**\* ニコニコボックス**

氏 名	メ ッ セ ー ジ	氏 名	メ ッ セ ー ジ
島 田 誠 一	奨学生を迎えて	李 俊 傑	お世話になってます
神 定 浩 明	会員誕生記念日	堀 口 路 加	奨学生卓話の機会に感謝
古 市 一 雄	結婚祝い・奨学生卓話御礼		

**\* 出席報告 出席免除会員 …… 4 名**

例 会 日	会 員 総 数	出 席	M . U	出 席 率 (%)
11 月 10 日	34	23	6	87.88 %
11 月 17 日	34	24	4	84.85 %

**編集後記**

・ 11月は、米山月間に当たり、奨学生を迎えての貴重な卓話の機会がありました。昨年度、奨学生カウンセラーとしてチリから国際武道大学に留学していたクリス君のことを思い出しました。ロータリー米山奨学会は、我が国最大の奨学生支援団体だそうです。世話クラブという独特の制度、奨学生がクラブで卓話をする機会を設ける事等、国際人の養成に大きな役割を果たしています。早くも、第一部上場の一流ソフト企業に就職が内定したそうです。今後、李 俊 傑 君が国際社会で大成することを願ってやみません。

・ 砂戸淳一会員は、これから全国のクラブをメーキャップしたいと言っておられました。当クラブへのメーキャップは、歴史に残る記念すべき第一歩だそうです。感謝、感謝です。 (K)